

第2次上富良野町子ども読書推進計画（案）
（平成26年度～平成30年度）

平成 年 月

上富良野町教育委員会

目 次

第1章	子ども読書推進計画策定の基本的な考え方	
はじめに	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
計画の位置付け	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
対象	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
期間	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
基本理念	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
上富良野町子ども読書推進計画構想図	～本計画の位置づけ～	2
第2章	子ども読書推進のための取り組み	
1	家庭・地域・学校における子どもの読書活動の推進	3
	第1次計画における状況	
	点検評価・課題	
	第2次計画における取り組み	
2	子どもの読書活動を推進するための環境整備の充実	4
	第1次計画における状況	
	点検評価・課題	
	第2次計画における取り組み	
3	子どもの読書活動に関する理解と関心の普及	5
	第1次計画における状況	
	点検評価・課題	
	第2次計画における取り組み	

第1章 子ども読書推進計画策定の基本的な考え方

【はじめに】

「子どもの読書活動の推進に関する法律」が平成13年12月に施行され、国と地方公共団体は子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定、実施することが定められました。そして国は平成14年8月、この法律に基づき「子ども読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定後、平成20年3月に第二次、平成25年5月には第三次基本計画が定められました。

また、北海道においても平成15年11月に「北海道子どもの読書活動推進計画」を策定し、平成20年3月に「次代を担う子どもの心をはぐくむ北の読書プラン」(第二次計画)、平成25年3月には第三次計画「生きる力をはぐくむ北の読書プラン」を策定しました。

上富良野町でも、国、道の基本計画を踏まえ、乳幼児期から保護者と共に読書に親しみ、楽しめる体験ができる機会をつくる等、子どもの読書活動に必要な取り組みや環境整備等「子どもの読書活動」を推進するために、平成23年度「上富良野町子ども読書推進計画」(以下「第1次計画」という)を策定し、平成24年度から平成25年度までの2年間で計画期間として、読書推進活動に取り組んできました。

こうした中、当町の第8次社会教育計画中期計画(平成26年度から平成30年度)に合せ、第1次計画策定にあたっての目標を継続し、第1次計画の取り組みの成果と課題を踏まえて「第2次上富良野町子ども読書推進計画」(以下「第2次計画」という)を策定し、更なる子どもの読書を推進することとしました。

また、本計画は上富良野町教育振興基本計画における第8次社会教育中期計画を踏まえ、子どもがその成長に応じて読書に親しめるよう子どもの読書活動に必要な取り組みや環境整備等に取り組んでいきます。

【計画の位置付け】

第8次社会教育中期計画の読書活動の普及の具体的な行動計画

【対象】

18歳以下のすべての子ども

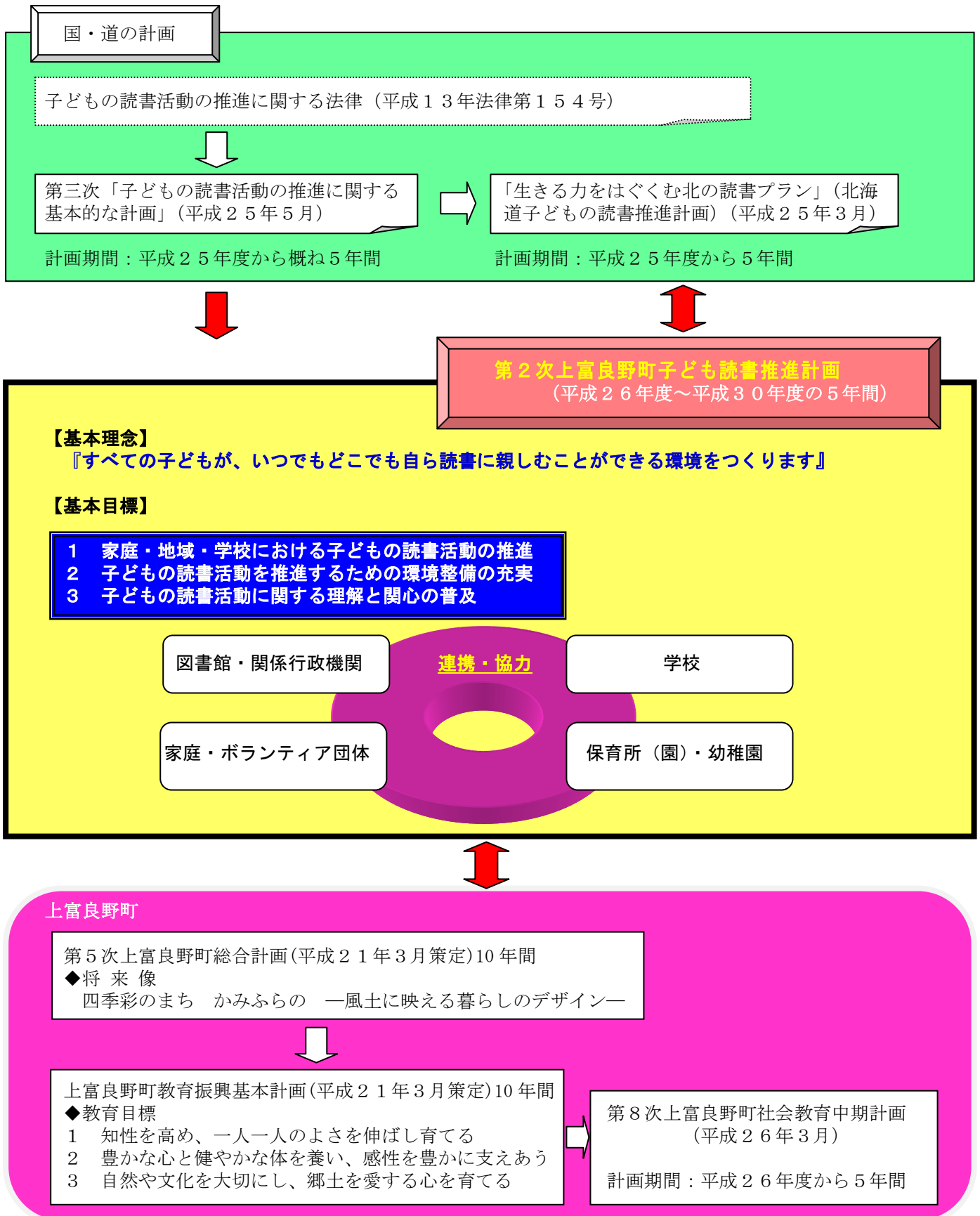
【期間】

平成26年度～平成30年度の5カ年

【基本理念】

すべての子どもが、いつでもどこでも自ら読書に親しむことができる環境をつくります

上富良野町子ども読書推進計画構想図 ～本計画の位置付け～



第2章 子ども読書推進のための取り組み

1 家庭・地域・学校における子どもの読書活動の推進

～第1次計画における状況～

＜家庭・行政機関・図書館＞

読書活動の意義を伝えるブックスタート事業をボランティア団体の支援・協力を得、7カ月・10カ月乳幼児健康相談日において実施しました。

対象乳幼児保護者案内時に推薦図書等を紹介したガイドブック「Book Start」を配布。保護者に対して家庭での読書活動の意義や図書館利用推進活動を実施しました。

＜ボランティア団体・図書館＞

ボランティア団体においては、子育て支援センター、保育所(園)・幼稚園、小学校4校における読み聞かせを実施。

図書館においては、幼児(概ね3才から就学前)向けの推薦図書等を紹介したガイドブック「えほんのもり」を、小学生から中学生の児童生徒には推薦図書リストを作成し、学校を通じて周知すると共に図書館並びに各学校図書室の利用推進を図りました。

なお、推薦図書リスト作成にはボランティア団体と各学校の選本協力により、図書館図書を購入する等の整備を行いました。

＜学校・保育所(園)・幼稚園＞

全小中学校においては朝読書の取り組み、保育所(園)や幼稚園、学校では図書だよりを発行し、読書習慣の定着や意欲化を図っています。

また、小学校4校では巡回移動図書を実施し本と触れ合い親しむ機会の提供や、学校図書の計画的な購入整備を図り、学校図書室の利用促進に取り組みました。

特に、学校と図書館の所蔵している図書情報の共有化に伴う「図書館及び学校図書室相互貸借」による図書利用促進にも取り組みました。

点検評価・課題

引き続き、各関係機関がそれぞれの立場において保護者や子どもに読書活動の推進活動を継続して行うと共に、保育所(園)・幼稚園文庫や学校図書室、図書館の利用促進を図る等子どもたちや保護者らに、更に身近に本に親しめる環境づくりが必要であります。

～第2次計画における取り組み～

1 家庭や学校等での読書活動の習慣化を図るよう取り組みます

- (1) 保護者に図書(読書)に興味を持ってもらうよう、情報発信を行います
- (2) 朝読書や読み聞かせの時間を設け、子どもの読書推進を図ります
- (3) 図書イベントの実施や参加に積極的に取り組みます

2 地域での読書活動推進に取り組みます

- (1) 7・10カ月乳幼児健康相談時において実施するブックスタート事業において、対

象乳幼児保護者に読み聞かせの意義を周知します

- (2) ガイドブック（推薦図書リスト）を配布し、各学齢期におけるの読書推進を図ります

2 子どもの読書活動を推進するための環境整備の充実

～第1次計画における状況～

＜図書館＞

新刊や季節に応じた特設コーナー設置や図書配架を工夫する等、読書活動環境の整備に取り組みました。

児童書充実を重点に取り組み、関係機関担当者の選本協力を得ながら購入整備を行うと共に、保育所(園)や幼稚園、小中学校へ推薦図書リストを配布し、図書館利用促進に取り組みました。また、図書館と各小中学校における図書館及び学校図書室相互貸借の運用を開始し、図書館と学校の連携を図り児童生徒の読書活動推進に取り組みました。

＜ボランティア団体・学校・保育所(園)・幼稚園＞

子育て支援センター、保育所(園)・幼稚園、小学校4校では、ボランティア団体による読み聞かせを実施。

図書館読み聞かせ室では、ボランティア団体の研修や会議の開催、ボランティア団体主催による定期的な読み聞かせ会や他事業による読書推進活動を実施する等、読書推進活動の場として活用し、子どもの読書活動の推進に取り組みました。

学校や保育所(園)・幼稚園においては、学校図書室や幼稚園文庫の利活用促進に取り組み、定期的な蔵書点検や乳幼児、児童生徒の見やすい配架等工夫を行い、読書環境の整備に努めました。

点検評価・課題

学校図書室においては、調べ学習に必要な資料や子どもたちのニーズに応える魅力的な蔵書をするための購入費の確保や学校規模による図書担当教諭の業務負担の差など、図書環境における整備は引き続き必要であります。

各関係機関がそれぞれの立場において保護者や子どもに読書活動の推進活動を継続して行うと共に、幼稚園文庫や学校図書室、図書館の利用促進を図る等子どもたちや保護者に、更に身近に本に親しめる環境づくりが必要であります。

～第2次計画における取り組み～

- 1 家庭や地域及び学校等で子どもが身近に読書に親しめる環境をつくります
 - (1) 本が身近に親しめ、感じることができるよう読み聞かせや企画コーナーの設置を実施します
- 2 学校図書室及び図書館が子どもに利用しやすい環境をつくります
 - (1) 利用しやすい配架や図書資料の充実及び蔵書管理（整理）を行います

(2) 巡回移動図書や図書館及び学校図書室相互貸借により、子どもの読書推進に取り組みます

3 関係機関と読書の環境整備を図ります

(1) 子ども読書推進会議などで関係機関との情報交換を図り、子どもの読書推進に取り組みます

3 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

～第1次計画における状況～

<図書館・学校・保育所(園)・幼稚園>

図書館ホームページでは、定期的な新刊購入情報や図書検索システムのデータ更新、図書館事業等の情報提供を行いました。また、ボランティア団体には研修機会や関連事業等における情報提供を行い、互いに連携を深めました。

秋の読書週間における「読書感想文・感想画コンクール」では、図書館と学校が連携し長期休業期間における読書推進を図る取り組みとして推薦図書の紹介をすると共に、読書感想文・感想画を課題とする等して、例年多くの児童生徒から応募がありました。更に、学校では児童会や生徒会において、図書館だよりの発行や呼びかけ等図書室利用推進に取り組みました。また、ボランティア団体や地域の方の支援により、乳幼児から大人まで図書館利用を促進するために、図書館まつりを開催しました。

更に、一部の学校ではPTA研修部で読み聞かせや学習会を開催するなど、家庭と学校が連携し読書推進を図りました。

保育所(園)・幼稚園、子育て支援センターにおいても、紙芝居や読み聞かせを実施すると共に、保護者へのお便りをとおして読書の意義を伝えました。

点検評価・課題

読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにします。子どもが機会・場所を問わず自主的に読書活動ができるよう、今後においても子どもの読書に関する理解と関心の普及活動を展開していく必要があります。

また、できる限り子ども自身に本を選ばせるように、読書習慣を身につけさせるまでは、子どもの興味や関心を尊重することが大切であり、家庭(家族)と一緒に読書することで、子どもとのコミュニケーションも図られると思います。

子どもの読書推進に今後共、家庭・地域・学校等が協力して、地域ぐるみでの読書活動が必要であります。

～第2次計画における取り組み～

1 家庭や地域及び学校等が様々な場面において読書の意義を伝えます

(1) 出前講座や各関係機関の活動日、参観日等において読書の意義を伝えるため、広報啓発活動による読書推進に努めます